

平成29年度第1回精神保健福祉審議会	
平成29年6月30日	資料1

**「精神障害者とその家族を支える支援のあり方について」
中間報告(概要)**

平成29年6月30日

仙台市精神保健福祉審議会作業部会

目次

1. 審議会から作業部会へ付託された事項
2. アンケート調査について
3. 先進地視察について
4. ヒアリング調査の進捗状況について
5. まとめと今後の方向性

1. 審議会から作業部会へ付託された事項

(1) 付託事項

- 1) 家族同士の体験等の情報共有と支え合いの促進のあり方
- 2) 家族等の心身の疲労へのサポートのあり方
- 3) 当事者及び家族の総合的な支援のコーディネートのあるあり方
- 4) 以上を踏まえた上での、精神障害者とその家族を支える支援のあり方



(2) 検討の視点

- 1) 家族の相談の場のあり方
- 2) 家族の休息の場のあり方
- 3) 家族へのアウトリーチサービスのあり方
- 4) 情報提供・周知のあり方
- 5) 家族や精神障害当事者の力を活用することの有用性
- 6) ケアマネジメントの必要性

2. アンケート調査について

目的)

家庭内の状況、家族自身の相談状況、当事者※に関して困難に感じる事柄、家族が求める支援やサービス等について、現状や課題等を把握すること。

方法)

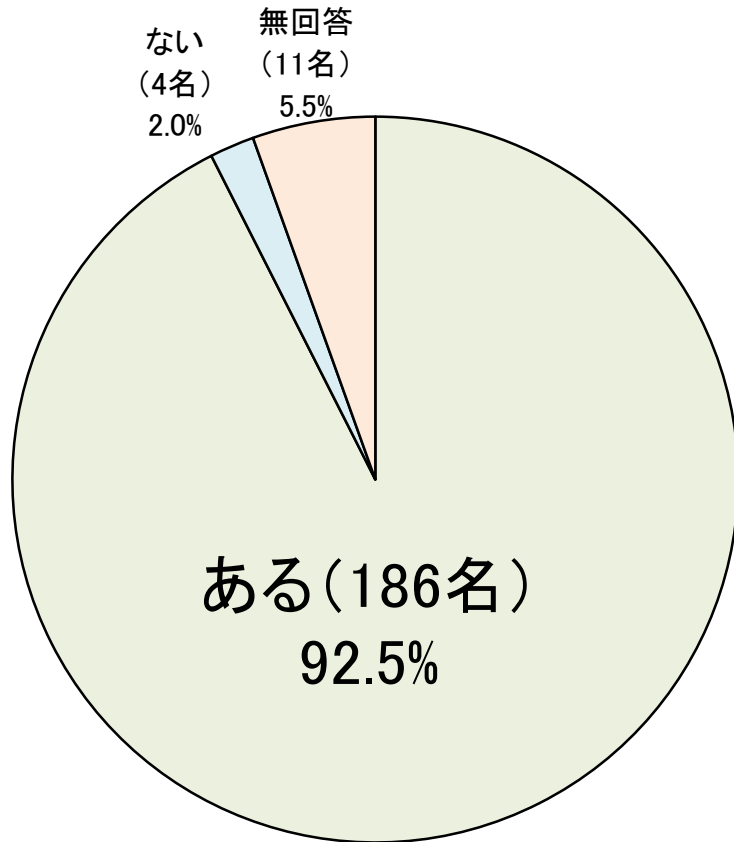
- ①対 象：精神障害者の家族
- ②実施方法：郵送調査法（配付時のみ手渡し）
- ③配付期間：平成29年2月17日～3月17日

結果)

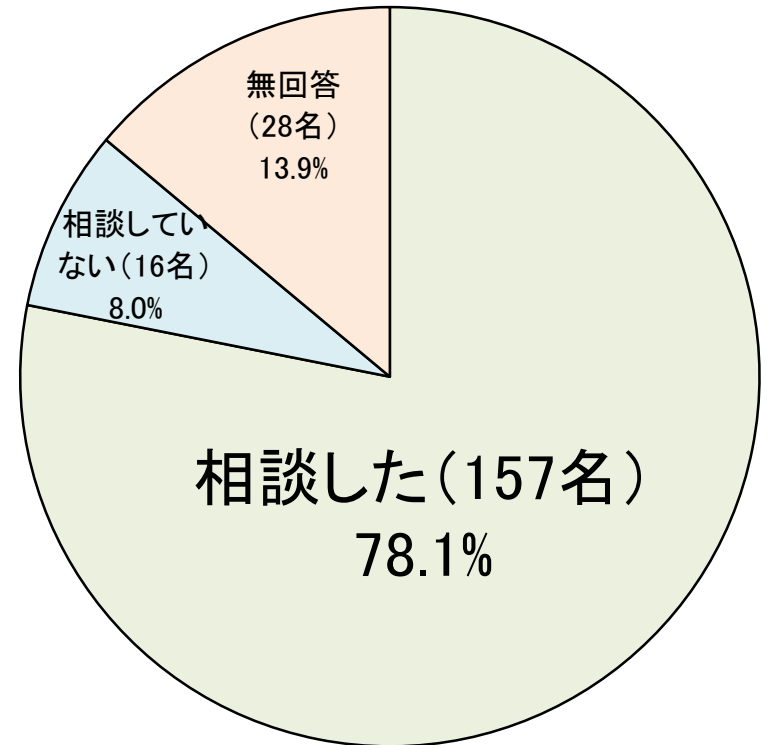
- ①配付数：計326名
(医療機関198名、地域家族会22名、行政機関106名)
- ②回収数：計201名（回収率61.7%）

※…精神障害がある本人のことを言う。

2. アンケート調査結果(1)－1

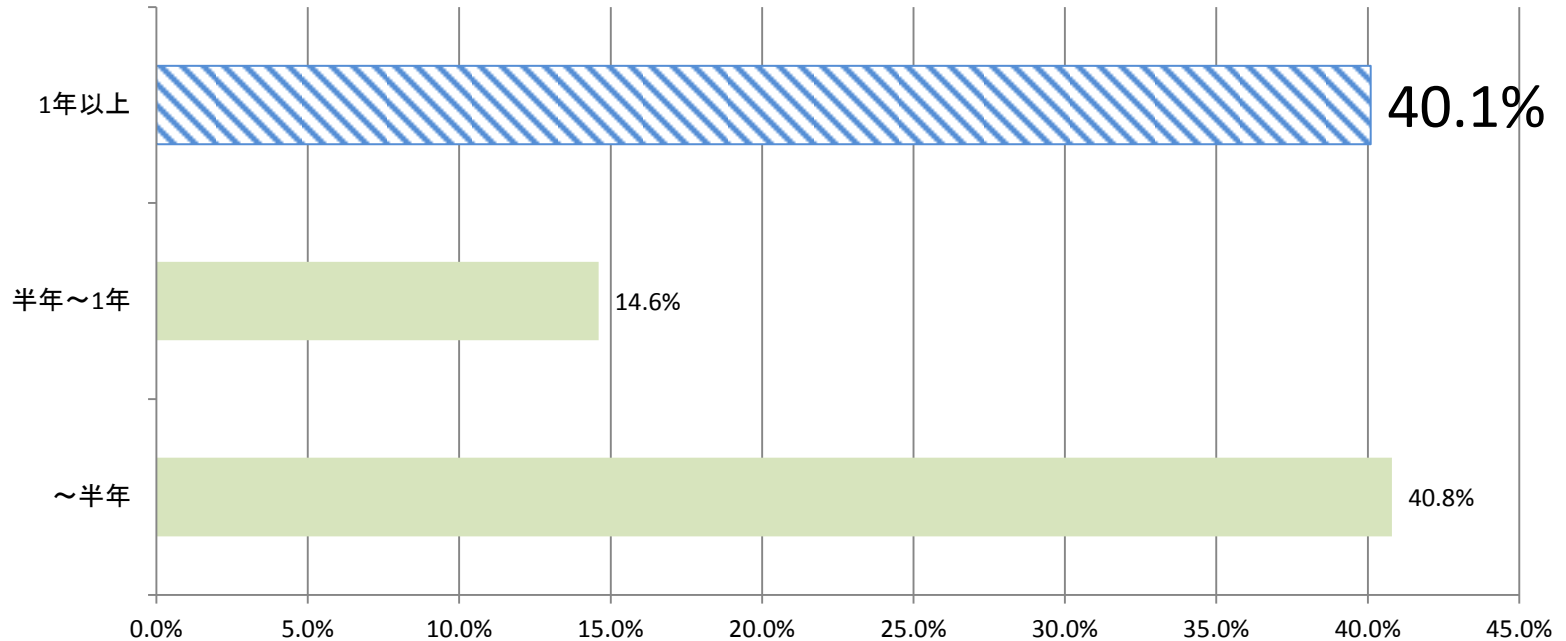


当事者に関して困ったこと (問11 (1))



困ったときに相談したか (問12 (1))

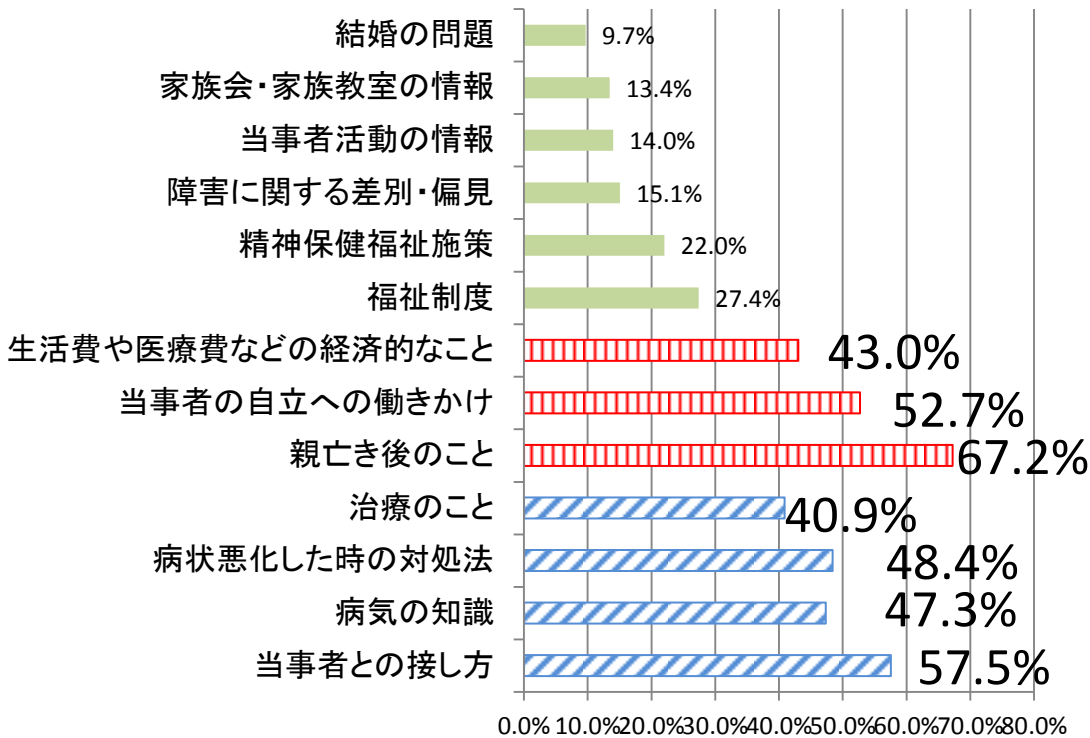
2. アンケート調査結果(1)－2



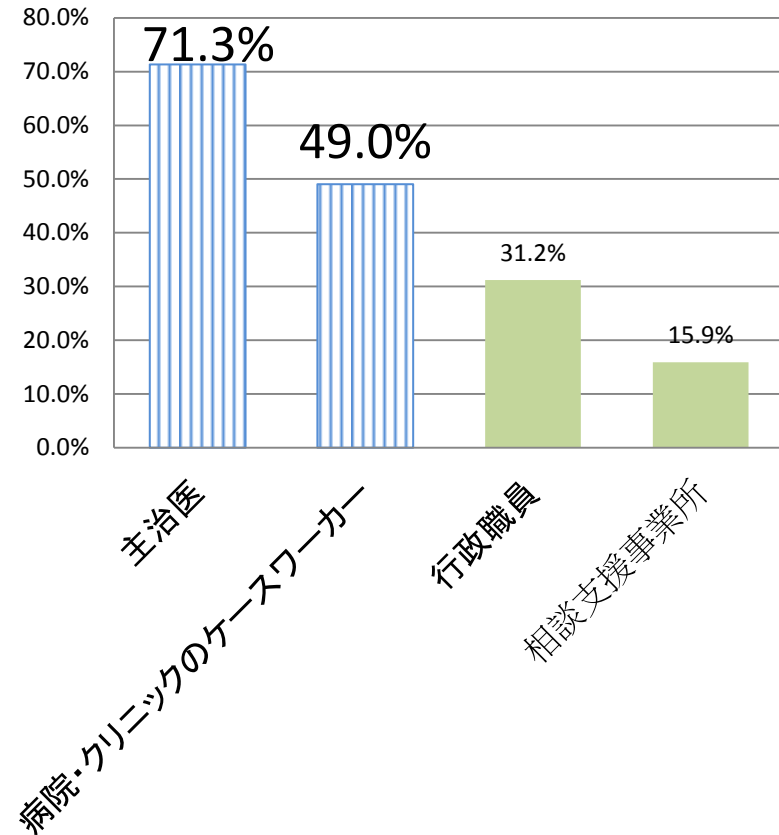
困ってから相談につながるまでにかかった期間（問12（2）-2）

家族が当事者への対応で困ったことがあるにもかかわらず、
家族が相談につながりにくい状況にある。

2. アンケート調査結果(2)



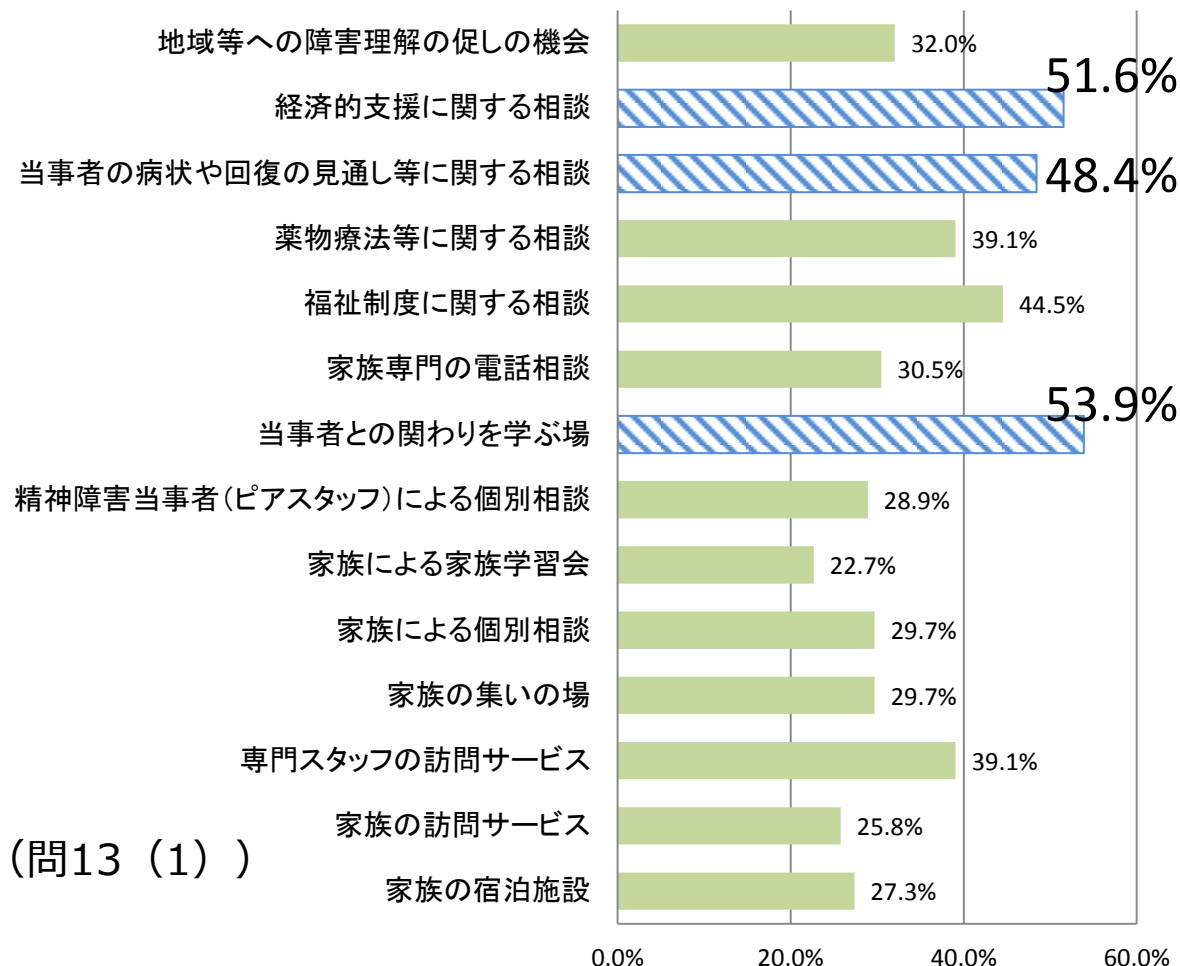
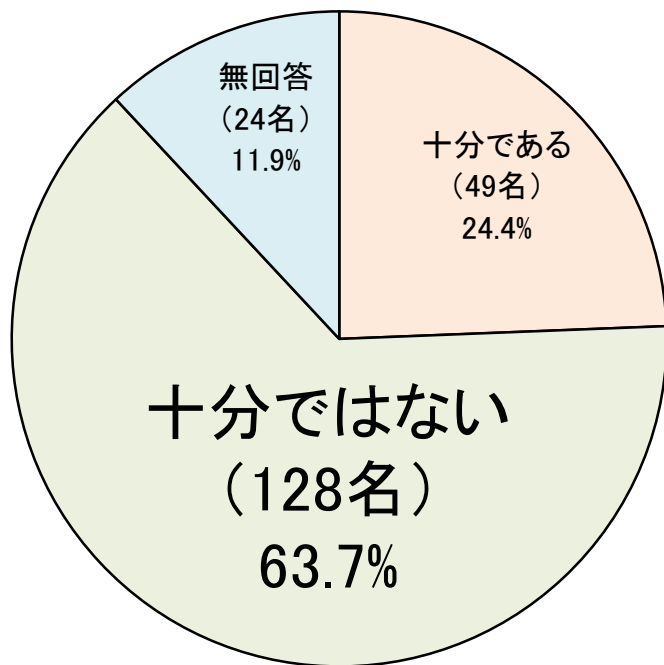
当事者に関して家族が困っている事柄 (問11 (2))



困った際、相談した相手 (問12 (2) -1)

家族の困りごと（治療面や生活面）に応じた支援内容を提供するための多機関ネットワークと支援機関の機能発揮が求められる。

2. アンケート調査結果(3)



家族は、家庭の今後の見通しや当事者への対応等について具体的に相談できる場や学べる場を求めている。

3. 先進地視察について

目的)

家族への支援やサービス等の運用のあり方、機能、効果、現状の課題等を把握すること。

視察日時・視察先及び視察内容)

視察日時	視察先	視察内容
平成29年 2月22日	NPO法人ほっとハート 「しゅう」(千葉県市川市)	家族の休息の場
2月23日	横浜市総合保健医療センター 「ハイツかもめ」	家族の休息の場
2月24日	さいたま市精神障がい者 もくせい家族会	家族へのアウトリーチサービス 家族の相談の場

3. 先進地視察の結果（1）

① 家族の休息の場について

[実施状況]

実施団体	概要
NPO法人 ほっとハート 「しゅう」	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者相談支援事業所等が利用の斡旋調整を行う ・自宅に残された当事者のフォローに相談支援事業所等が当たる ・休息の場には相談機能は含まない
横浜市総合保健 医療センター 「ハイツかもめ」	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉センターが利用の斡旋調整を行う ・保健福祉センターは、当事者支援も含めトータルに対応する ・利用した家族に対して、横浜市精神障害者家族会連合会が当事者との関わりについて振り返りの機会を提供

[利用家族の感想]

- ・当事者と離れて安心できた
- ・当事者との関係を考える時間が持てた
- ・当事者と離れることへの不安があったが、相談支援事業所が当事者フォローに回ってくれた

休息の場の利用は、当事者と家族の物理的な距離を生み、お互いにゆとりをもたらす効果がある。その際、地域の支援者等が加わり、相互のフォローアップを行うことがより効果を高めると考えられる。

②家族へのアウトリーチサービスについて

〔実施状況〕

実施団体	概要
さいたま市精神障がい者 もくせい家族会	【アウトリーチサービスの実施者】 ・家族学習会担当の経験者、会長経験者 【アウトリーチサービスの対象】 ・会員およびその家族 【アウトリーチの効果（自己評価）】 ・同じ家族として、自らの体験を語りながら対応を提案することで、相手家族の深い共感を得てエンパワメントできる

〔利用家族の感想〕

- ・高齡や身体疾患の関係で、簡単に外出できないので、訪ねてきてもらえるのはありがたい。
- ・将来の見通しが持てて、安心した。
- ・同じ境遇の家族に、辛い気持ちを話すことができ、共感してもらえて一歩踏み出せた。

同じ立場の家族によるアウトリーチサービスは、家族の孤立感を低減し安心感を高める効果が期待できる。

3. 先進地視察の結果（3）

③ 家族や精神障害当事者の力を活用することについて

〔実施状況〕

実施団体	概要
さいたま市精神障がい者 もくせい家族会	<p>【相談の場、学習の場を活用した若い世代の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い年代の家族が、家族による学習会に参加することで「私でもなにかできるかも」とエンパワメントされる <p>【共感や傾聴、相手の立場になって考える力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い家族の集まる相談の場では、先輩家族が希望を持ってもらう働きかけを行い、日頃の悩みを共有している ・先輩家族が身近な目標となり、支援者として活動する意欲ときっかけになっている <p>【精神障害当事者との交流体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の中で、当事者理解が進み、対応が変化したり理解が深まる

よいモデルとしての先輩家族の存在や同じような体験の共有は、支援者として家族が活動する契機のひとつとなる。

自分の家族以外の当事者と実際に交流する体験を持つことは、精神障害の理解を深化させ、支援者としての活動を豊かにする。

4. ヒアリング調査について

目的)

精神障害者の家族に対し求められる支援内容とその効果を、聞き取りにより具体的に把握する。

実施期間)

平成29年4月～7月（予定）

対象及び実施状況)

(1) グループヒアリング

対象	箇所数	ステータス
家族教室（行政機関主催）参加者	3団体	聴取終了
家族教室（医療機関主催）参加者	1団体	聴取終了
地域家族会会員	1団体	聴取終了

(2) 個別ヒアリング

対象	人数	ステータス
医療機関及び地域支援機関の支援を受けている家族	5-6人	実施中

5. まとめと今後の方向性(1)

(1) 家族の相談の場のあり方

[現状又は実態]

- ・家族は困ってから相談するまでに、相当の時間を要している。
- ・家族の困りごとは当事者の治療面・生活面など多岐にわたるが、相談相手は医療機関職員に偏っている。

[検討の概要]

- ・家族が長期にわたり相談できない理由を明らかにする必要がある。
- ・家族の困りごとに応じた支援を提供するため、地域の支援機関がより一層機能する必要がある。
- ・同じ立場にある者同士の相互交流は大きな支援効果があると言われており、家族の相談ニーズを補える可能性がある。

[今後の検討事項]

- ① 家族にとって相談しやすい場。スムーズに相談に訪れるために必要なこと。
 - ② 求められる相談メニューなどの機能。
-

5. まとめと今後の方向性(2)

(2) 家族の休息の場のあり方

[現状又は実態]

- ・先進地では、家族の休息の場と当事者支援等の連動が意識されていた。

[検討の概要]

- ・休息するという機能だけを考えるのではなく、家庭全体（当事者及び家族）に対して支援を提供することが重要。
- ・家族が自らの関わり方を見直すことの効果を高めるために、同じ立場の家族の力を活用することも必要と考えられる。
- ・自宅に残された当事者に対しても、地域の支援者（行政職員・相談支援事業所等）が介入し、日常生活のフォローや家族関係の振り返りを通して、当事者が自らの関わりを見直せる機会を提供していくこと。

[今後の検討事項]

- ① 家族の利用ニーズと家庭状況（本人の病状、本人への接し方等）の関連性の把握。
 - ② 休息の場を通して家族と当事者の双方に一貫した支援を提供するための具体的な方法。
-

5. まとめと今後の方向性(3)

(3) 家族へのアウトリーチサービスのあり方

[現状又は実態]

- ・家族は困ってから相談するまでに、相当の時間を要している。
- ・先進地では、同じ立場の家族がアウトリーチを実践し、家族の孤立感を下げ安心感を高めていた。

[検討の概要]

- ・家族は当事者への対応に精一杯で相談することに考えが及びにくい等の場合もあり、家族の背景を把握する必要がある。また、当事者の発症時期や家族の孤立の程度によって、アウトリーチの必要性は変わってくるのではないか。
- ・支援者のアウトリーチにより、生活全体や家族の関係性を把握し、必要な支援を調整する必要がある。
- ・支援者と、同じ立場の家族が協働したアウトリーチを提供することが有効である可能性がある。

[今後の検討事項]

- ① 家族の利用ニーズと家庭状況（本人の病状、本人への接し方等）の関連性の把握。
 - ② 家族に効果的な支援を提供するためのアウトリーチ体制。
-

(4) 情報提供・周知のあり方

[現状又は実態]

- ・家族は困ってから相談するまでに、相当の時間を要している。
- ・先進地では、個別の状況に応じてサロンや休息の場等の情報提供と利用の促しが行われていた。

[検討の概要]

- ・相談につながりにくい家族は困っている内容に即した支援情報を自ら把握することが難しかったり、支援情報が家族に届きづらかったりする状況などがあることを具体的に把握し、効果的な情報提供・周知のあり方について検討する必要がある。
- ・周囲に隠したいと思い相談することへの迷いがある等の家族の心情に配慮し、その家族の困っている状況に即して支援情報を提供する必要がある。

[今後の検討事項]

- ① 家族が困っている内容に即した支援情報を適切に提供するために必要なこと。
-

5. まとめと今後の方向性(5)

(5) 家族や精神障害当事者の力を活用することの有用性

[現状又は実態]

- ・家族の困りごとに対して、家族の力を有効に活用できる可能性がある。
- ・先進地では、家族と精神障害当事者の交流を通して、当事者理解が深まったという感想がきかれた。

[検討の概要]

- ・同じ立場の家族が支援に参加することを通して、見通しがつく安心感を得たり、距離の取り方が変化し家族関係に良い変化が生じたりする場合がある。
- ・精神障害当事者の力を活用することについては、家族と当事者が実際に交流する体験を持つこと等により、当事者理解を深化させ、家族の支援者としての活動が豊かになる場合もあるのではないか。

[今後の検討事項]

- ①家族の力を活用するために必要なこと。
 - ②精神障害当事者の力を活用するために必要なこと。
-

(6) ケアマネジメントの必要性

[現状又は実態]

- ・家族は当事者の治療面・生活面など多岐にわたる困りごとを抱えている。
- ・先進地では、地域の支援者により家族支援と当事者支援の連動が意識されていた。

[検討の概要]

- ・当事者とその家族に対して効果的な支援を提供していくためには、家庭全体の状況を把握し、関わりの調整や支援全体の進捗管理は特に重要である。

[今後の検討事項]

- ①効果的なケアマネジメントの実践のために必要なこと。
-